

エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションへの日本人専門家参加の概要

参加する専門家：日本赤十字社和歌山医療センター感染症内科部
古宮 伸洋 （こみや のぶひろ） 医師

訪問予定先： リベリア

参加期間：平成 26 年 8 月 25 日～9 月中旬（約 3 週間）

目的：エボラ出血熱対策に関する WHO ミッションに専門家として参加し、現地の疾病発生及び診療・対策状況等について調査・評価を行うと共に、院内感染対策を中心に必要な助言を行う。

西アフリカにおけるエボラ出血熱の発生状況（平成 26 年 8 月 20 日現在）：

国	患者数	死亡者数
ギニア	607	406
リベリア	1082	624
シエラレオネ	910	392
ナイジェリア	16	5
合計	2615	1427

過去の実績：平成 12 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、3 回にわたり計 5 人（延べ 6 人）の専門家が派遣されています。

平成 24 年にウガンダにおいてエボラ出血熱の流行が発生した際、WHO の要請を受けて、1 名の専門家が派遣されています。

平成 26 年 5 月と 8 月にリベリアに、7 月にシエラレオネに、WHO の要請を受けて、エボラ出血熱対策の専門家として、2 名（延べ 3 名）の専門家が派遣されています。

参考（厚生労働省検疫所ホームページ）：

・エボラ出血熱

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name48.html>